

2007年問題を考える



あなた自身が「まちの原動力」に...

人・まち・地域とつながろう!!

まちが動くのは、人が動くとき

人は人とつながることで、心動かされる瞬間を感じます。そして、心動かされたときに、ひとはまちを動かす原動力となります。だからこそ、まちへ出て、人に会い、見て聞いて、心動かす瞬間を大切に暮らしましょう。

「まちを動かしている」という実感が

持てる...それが狭山市の目指す市民との協働のまちづくりです。

地域デビューが初めの一步

これまでの人生で培った知識や経験をまちに生かしたい...そうは言うても、最初の一步を踏み出すには、大変なエネルギーが必要です。地域デビューの先輩たちは、どんなふうにそれを成し遂げたのでしょうか。

夫

地域デビューは、最初の一步が大切。私の場合、自治会が最初の一步でした。自治会活動に参加することで、地域の皆さんとのつながりが持て、活動をとおして知り合う人の輪ができました。始まりは人それぞれですが、公民館などの事業に参加するのも一つの手段です。趣味のサークルでは、話が弾みます。そんな中から、気の合う親しい友人ができるとうれしいですね。最初の一步は勇気が必要です。そんなとき、ご家族がやんわりと背中を押してくれたら...その一押しがきっかけで、生き生きと張りのある毎日が送れるといいですね。

(吉澤洪さん・南入曾在住)



私たちの地域デビュー

妻

私が公民館でのサークル活動に参加するようになったのは、

平成3年ごろで、夫と同時期です。友人からの誘いがきっかけで、今では、いくつものサークルに掛け持ちで参加しています。参加することで人の輪が広がっていき、新たなサークルに加入する...そんな繰り返して、忙しく充実した毎日を送っています。私の夫はもともと家に閉じこもるような人ではないので、退職後も心配はしていませんでしたが、よく聞くように、何もせず家に閉じこもってばかりいては、家族として健康面でも心配になりますね。少しでも興味があれば、まずは散歩がてら公民館に行ってみてはいかがでしょうか。(吉澤芳子さん・南入曾在住)

声 地域で活躍する先輩たち

趣味の活動はお金にならないし、あまりのめり込むと家族にしかたないね、生きがいでだからやめられないね(60代男性) 地域での活動は楽しく、人の喜びの声を聞くのがうれしい(60代女性) 現役時代、狭山市は暗いイメージだったので、独自の文化的なまちにしたいと思っていい(70代男性) 勇気を持って飛び込んで(70代男性) 多くの人と知り合えるのがいいね。地域とのつながりも深くなる(70代男性) 地域にお礼をしたいと考えていた(70代男性) 今まで一生懸命働いてきた配偶者をじゃま者扱いしないで(60代女性) 人の輪が広がるのがうれしい(60代男性) 地域デビューは人との触れ合い(60代男性) 会社でのつながりだけで生きていけると思っただが、全く違うことに気づいた(60代男性) 前歴は話さない方がいい(70代男性) 家に閉じこもっていると家族からも疎んじられる(70代男性) 外に出たことで毎日が充実(60代女性) 地域社会とギブ・アンド・テイクのライフスタイルをつくりたい(60代男性)

「つながりたい」人、お待ちしています

SSCCとSSCC同窓会

狭山シニア・コミュニティ・カレッジでは、高齢者が生きがいを持って生涯学習に取り組んでいます。またSSCC卒業生が主体となり、得た知識や技術を地域に還元しています。

生涯学習ボランティア制度

豊かな知識、優れた技能などを生かし、市民の皆さんの要望に応じて直接指導する市民講師の人材バンク制度です。この制度の補佐的な事業

で、「おとなの学び」をテーマに、生涯学習の講師から自らが教わる「市民講師塾」を行っています。
地域子ども教室



地域の皆さんが主体となって、子どもを中心に地域と人と学校がつながり、徐々に輪が大きくなってきています。

公民館・集会所など

市民活動の拠点として、文化祭やサークル活動の支援、さまざまな講座・教室などを開設しています。

狭山市シルバー人材センター

高齢者に、持っている技術などを生かした就業の機会を確保し、提供する業務を行っています。

狭山さえあい福祉公社

市民が有償ボランティアとして登録し、「ファミリー・サポート」事業や「さえああい狭山」などの相互支援活動を行っています。

狭山市社会福祉協議会

市民が主体となった福祉活動を目指し、行政や各種団体、地域の方と協力し合って、だれもが安心して暮らせる「福祉のまちづくり」をすすめています。

います。また、ボランティアセンターもこの協議会にあります。

自治会

地域と行政とのパイプ役を担っています。「コミュニティの育成や防犯パトロール、広報さやまの配布など、さまざまな活動を行っています。

このほかの団体

ほかに、さやま生涯学習をすすめる市民の会やさやま環境市民ネットワーク、狭山市文化団体連合会、狭山市国際交流協会、高齢社会を考える会、狭山市老人クラブ連合会、博物館ボランティア、スポーツ・レクリエーションを普及させるための狭山市体育協会や狭山市レクリエーション協会、各種NPOなど、市内にはさまざまな市民組織や団体があります。

十人十色 あなたなら…

会社を退職した後、子育てや介護を終えた後…あなたならどのような自分の人生を彩りますか。趣味に興じるのも結構ですし、読書三昧もよいでしょう。暮らし方は人それぞれ。でももし、何もすることがないと思ったら、家の外に出てみてはいかがでしょう。そして、まずは人とつながりましょう。あなたを必要としている人がいるかもしれません。

あなたの欲しい情報を持っている人がいるかもしれません。殻を破り、人とながらること、気持ちのよりどころがみつかり、心豊かに暮らせるのではないのでしょうか。

特集へのご意見やご感想を電話やメールなどでお寄せください。

「ご意見・問合せ」

社会教育課へ内線5673

「地域社会へのソフトランディング 新たなライフスタイルの創造」



三輪建二氏
お茶の水女子大学教授。狭山市だけでなく県内全域で「おとなの学び」をテーマにした市民講師の養成研修などを行う

団塊の世代のサラリーマンが一斉に退職するのが2007年からと言われています。貧しい中から立ち上がり、高度経済成長を支えてきたにもかかわらず、現役時代には不況やリストラ問題に遭遇し、退職後も年金の減少といった明るくない未来が待っていると言われがちな世代。「お疲れさま」とねぎらいの声を掛けたいけれども、当の団塊の世代の人たちとその周囲にいる人々にとっては、退職後の地域社会への参加は、なかなかの難事業かもしれません。

これまで仕事で蓄積してきた知識や経験、そして技能を、地域社会で活かしていくならば、新たな生きがいの創造になるでしょう。そのためには、今から、会社や仕事だけがすべてとするのではなく、少しずつでも地域社会に溶け込んでいって欲しいと期待しています。

地域社会へのソフトランディングは大変ですが、考えてみると、仕事も十分に体験できたし、地域社会のこともよく知るようになるのですから、本当に恵まれていると思えますよ。気後れせずに第一歩を踏みだしてみませんか。